（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（松本地域）

令和７年度　松本地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州ワイン歩き　～信州ワインに染まる街～
事業主体（連絡先）	信州の食文化発信プロジェクト
事業区分	（６）産業振興、雇用拡大に関する事業　ア）エ）
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,424,850 円（うち支援金：2,568,000 円）

事 業 内 容

信州ワインに触れる機会の創出のため、御朱印帳ならぬ「御酒印帳　わ飲日誌」を制作しました。
「わ飲日誌」として、どのような信州ワインを飲んだのか、そしてどんな印象をもったのかを日誌のように記載してもらう内容としました。
飲んだ店舗、購入した店舗の「御酒印」をついて、場所の確認もでき、スタンプを集めて巡っていただける内容としました。
御酒印帳は協力店での販売の他、安曇野 BASE などでも販売しました。

【PR イベント】

【目標・ねらい】

①信州ワイン取扱いの店を増やす
②信州ワイン飲む人を増やす
③信州ワインを飲む機会を増やす
④町の活性化を目指す

事 業 効 果

信州ワインを取り扱う飲食店を増やそうとした。しかしがなら信州ワインは品質が高い一方で価格帯も高めのため、気軽に注文されにくい傾向がありました。
そのためグラス販売では回転が悪く、開栓後に十分な数が出ないまま時間が経過し、ワインの品質（酸化）が低下してしまうリスクがあり、その点をどのように解決するかが見いだせず、協力店舗を増やすことができなかった。

また、協力店が増えずにいるなか、事業の実施も遅くなり、ワインの時期などとも連携できずにいて、御酒印帳の販売も 30 冊程度と振るわない内容になってしまった。

※自己評価【Ｃ】

【理由】
信州ワインの取り扱い店舗を多くすることができなかった。
御酒印帳の販売も目標値に足りず、街の賑わい創出に貢献したというところまでにはなっていない。

今後の取り組み

現在の信州ワイン歩きの御酒印帳（わ飲日誌）と協力店舗との事業は、信州ワインサミットなどのイベントに合わせて継続していきます。
それによりイベント時だけでなく、継続的に信州ワインの取り扱い店舗を増やしたいと思います。
多くの信州ワインを取り扱っている店舗をさらに広め、信州ワインでの街の活性化に寄与したい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある